

**大学入学共通テストを終えて**

1月15日(土)、16日(日)に、本校57期生が大学入学共通テストを鹿児島大学桜ヶ丘キャンパスで受験しました。前日は2限目まで授業を受け、その後は会場の下見のために余裕を持って下校し、最後の準備を行いました。

当日は、感染症対策のために、昨年と同様に、一部の教員しか会場に行くことができませんでした。引率された先生方が、本校生の様子を次のように語ってくれました。次年度以降に引き継ぎ、58期生以降にも役立てたいと思います。

- ・試験時間の関係で、文系が先に、1時間後に理系の集合だった。寒い中、57期生は皆、テキストを開いて最後の確認をしていた。寒さが懸念された桜ヶ丘キャンパスであったが、本校生は防寒対策をしっかりしていた。流石の中央生である。
- ・集合時間の1時間以上前に会場入りし、心を落ち着かせて勉強している生徒もいた。
- ・前日も初日の夜も、きちんと睡眠をとった生徒が多かった。
- ・慌てないように、試験会場に早めに入る者もいた。

受験票を忘れたり、体調を崩したりする生徒はいなかったようです。時間に余裕を持ち、コンディションを整え、落ち着いて共通テストに臨んでいた57期生を頼もしく思います。

1月17日(月)は、各教室で自己採点をしました。この採点結果をもとに出願先を決定します。58・59期生は、自己採点まで含めた3日間が共通テストであることを意識してください。そして、自己採点が正確でないと、正しい出願ができないので、これからの模擬試験後の自己採点への意識を高めていってください。

1月21日(金)には、最終進路判定会が行われました。自己採点と各予備校の判定、さらに生徒の二次科目の現状や伸びしろを踏まえ、出願先と合格可能性について57期生全員について話し合いました。

後日、最終進路判定会の結果を踏まえた三者面談が行われました。共通テストの予想平均点の動きが大きく、困難な志望校の選定となりましたが、生徒・保護者・担任が知恵を出し合い、覚悟と決意を確認し、出願先を確定させました。

57期生にとっては、人生の中で最も大きな選択だったと思います。ここで自分が下した最終決断を信じ、個別試験に向けて全力で走り抜けてほしいと思います。

個別試験対策開始

1月18日(火)から、個別試験対策の特別授業が始まりました。これまでの勉強と違い、予習・復習・演習の全てを個別試験に必要な科目のみに絞ることになります。1日当たりの密度が格段に上がります。この期間中は、ハイレベルな勉強にストレスを感じる人もいます。ただ、二次対策に必死に取り組む中で、必ずそれまで積み上げてきた経験が頭の中で結びつく瞬間がきます。そうした手応えを実感しながら、共通テスト以上に深い理解と思考力、表現力が求められる問題に対応する力を身に付けていきます。実際、これまでも多くの先輩たちが、この個別試験対策の中で学力が伸びたと実感しています。そして、分かるから勉強が楽しいという声が上がります。共通テストはあくまでも通過点に過ぎません。本当に勉強が面白くなるのはここからです。

58期生はあと約50週で、59期生はあと約100週で57期生と同じ立場になりますが、一日でも早く、「勉強が楽しい」と感じることができるようになってほしいところです。日々の学習を大切に、基礎基本を早期に定着させ、受験期を迎えましょう。

数値を意識する

3年生は「合格ライン」も意識しましょう。

合格ライン突破対策

国公立大2次試験(個別試験)は記述式の2～3教科が主流。配点にもよるが、「共通テスト7～8割+2次5～6割」で総合点7割台を確実に得点し、無理なく合格ラインをクリアしたいところ。

<https://resemom.jp/article/2021/11/29/64533.html>

共通テスト自己採点を元に、個別試験で必要な数字を確認しましょう。下表は左から総点、合格者平均点です。

鹿児島大・法文・多元・前	1000	660.75
鹿児島大・工・機械工・前	1250	767.33
九州大・文学・前	750	503.37
九州大・工学・I群・前	1150	748.24

【2021年度入試結果。大学HPより抜粋。】

昨年度とは共通テストの平均点が異なるため、比較は容易ではありませんが、漠然と「6割得点する」ではなく、得意科目でどれだけカバーできるか、具体的な数字を想定しましょう。日々の勉強の中で、リアルなシミュレーションを習慣付けることでメンタルも強化し、本番に備えましょう。

図書館利用率世界一のフィンランド

～読解力が高い国の読書法～

1 学年 英語科 藤崎 慶子

1月21日（金）の南日本新聞に、4月9日開館の天文館図書館についての記事が掲載されていました。千日町の再開発ビル「センテラス天文館」内に入る市施設で、図書館は年中無休で、午前10時～午後8時まで年中無休の開館予定だそうです。児童書から一般図書まで蔵書約4万冊が見込まれています。図書館が、図書館以外の施設と同一の建築物内に設置されることで、気軽に読書の楽しさを体験したり、豊かに広がる知識の世界に触れたりすることが可能になるので、とてもいいことだと思います。中央高校に近いところにこの新図書館ができるのもうれしいことですね。

さて、私はこの記事を読んだ時、4年前に旅をしたフィンランドを思い出しました。フィンランドはデパートや駅など、あらゆる場所に図書館があり、買い物帰りに沢山の本を借りて帰る親子連れの姿を滞在中よく見かけました。フィンランドは国際学習到達度調査（PISA）で学力や読解力が常に上位に位置しています。約77%の国民が1日に1時間は本を読んでいると言われるほど読書が大好きな国民で1人当たり年間21冊本を借りるので「図書館利用率世界一」の国と評されています。

では読書量が多ければ確実に読解力が伸びるのでしょうか？国立教育政策研究所の有元秀文総括研究官が、読書と「読解力」の関係について、日本と「読解力」世界一のフィンランドの二国間で比較分析をしています。その結果によると、フィンランドの子どもの場合、読書量が多くなるほど「読解力」が高まる関係があるのに対し、日本の子どもたちは読書量が増えても「読解力」は頭打ちになっている傾向が見られたそうです。2つの国の読書のあり方にどのような違いがあるのでしょうか。

日本の子どもたちが、ただ本を読んでその文章や資料から必要な知識や情報（いつ？だれが？どこで？なにを？）を「取り出す」読書をするのに対し、フィンランドの子どもたちは推論したり資料を比較したりする（なぜ？どのようにして？）というような「解釈」をしたり、自らの知識や考えに基づいて、その構造や主張点について「熟考・評価」したりすることを重視しているのだそうです。このような読書法を幼い頃から習慣づけることで全ての教科につながる読解力を養うのです。

OECDが21世紀のグローバル社会で活躍できる人間を客観的に評価する指標として「21世紀は読解力」という結論に達しました。ここでいう「読解力」とは「自ら目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」と定義されています。先日行われた共通テストでも、知識や解法の暗記のみで解答できる問題は少なくなっています。資料や問題文から得られる情報と授業や教科書で学んだ既知の知識を基に関連づけ、推論、考察する力が問われています。未曾有の激しい変化が予想される社会においては、想定外の事象や未知の事象に対して、持てる力を総動員して解決していける力を培うことが必須となるでしょう。そのような力を育む上で、フィンランドの読書法にこれからの世の中を生き抜くヒントが隠れているのかもしれませんがね。これから本を読むとき、探究の時間に資料を繙く時、フィンランドの読書法を思い出して試してみてください。新しいアイデアや解決法が見出せるかもしれませんよ。



「あたしをコーデリアと呼んでくださらない？」これは『赤毛のアン』の一節である。アンという名前が現実的すぎるとして、優美な名前としてアンが求めた名前だった。

名字と違い、流行があらわれやすいとされるのが下の名前。その名前は「読み方」を決め手にすることが多く、その理由の一つが音の響きにあるらしい。明治安田生命が毎年発表している「生まれ年別の名前調査 名前ランキング」(一部抜粋)によると下の表ようになる。

1950年の男子では、1920年以降常にベスト10入りしている「博」と、吉田茂首相(当時)の影響からか「茂」が、女子では、昭和への元号改正から26年間圧倒的支持を誇っていた「和子」の人気の高い。1970年代に女子の「子」離れが始まり、「美」が人気となった。1990年代になると、女子の「子」離れが定着し、男子では、「翔」「樹」など自然を連想させる字が人気となり、現在もこの傾向が続いている。また、最近は男女ともに漢字一文字の名前の人気が高くなっており、女子では、花や草木をイメージさせる名前も多い。

	性別	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
1950 昭和25	男子	博	茂	隆	実	清	進	明	修	豊	誠
	女子	和子	洋子	幸子	恵子	節子	京子	悦子	恵美子	順子	由美子
1970 昭和45	男子	健一	誠	哲也	剛	博	直樹	学	博之	英樹	修
	女子	直美	智子	陽子	裕子	由美子	真由美	直子	久美子	由美	恵子
1990 平成2	男子	翔太	拓也	健太	翔	達也	雄太	翔平	大樹	亮	健太郎
	女子	愛	彩	美穂	成美	沙織	麻衣	舞	愛美	瞳	彩香
2004 平成16	男子	蓮	颯太	翔太・拓海		大翔	颯	翔・優斗・陸		翼	
	女子	さくら・美咲		凜	陽菜	七海・未来		花音	葵	結衣	百花・ひなた
2021 令和3	男子	蓮	陽翔	蒼	湊	樹	朝陽	大和	悠真	颯真	陽向
	女子	紬	陽葵	凜	滯	芽依	結愛	陽菜	杏	紬希	莉子・花

ちなみに、「名前由来net」がまとめた「全国名字ランキング」のベスト10が下の表である。名字の80%以上が地名由来の地名姓といわれている。

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全 国	佐藤	鈴木	高橋	田中	伊藤	渡辺	山本	中村	小林	加藤
鹿児島	中村	山下	田中	前田	東	山口	川畑	池田	浜田	松元

では、名字+名でフルネームにするとどうなるか。男性は田中実さん、女性は佐藤和子さんがそれぞれ1位である。

後期後半が始まり、約3週間が過ぎようとしている。実力考査の訂正等は提出したであろうか？課題提出だけに追われてはいないか？やらされている感が強いとなかなか勉強の効率も上がらないこともある。自分の進路実現のためには、勉強はどうしてもしなければならない。どうせしないといけないうら勉強する視点を変えてみることも必要であろう。

今回は『赤毛のアン』から名前ランキングについてまとめてみたが、自分が不思議に思ったこと、疑問に思ったこと、それを大事にして欲しい。「ん?」「どういうことだ?」そうした疑問が好奇心を持つことになり、自分で調べてみる能動的な学習につながっていく。

訂正、宿題、復習、予習・・・当然こなさなければならないが、学習に必要な好奇心を生み出すことも行って欲しい。

しばらくすると学年末考査がやってくる。1年間の締めくくりの時期も近づいている。みんなの能動的な学習する姿に期待したい。



天の封書が開く時

3 学年主任 小畑 是也

今から 13 年前の出来事です。2009 年 1 月 15 日、乗客・乗員 155 人を乗せた航空機がニューヨークの空港から離陸しました。しかし、離陸まもなく航空機は鷹の大群に遭遇し、鳥がエンジンに吸い込まれて停止します。このままでは墜落するという緊急事態に直面しました。パイロットのサレンバーガー機長は別な空港に着陸することも考えますが、どんどん高度が下がってきます。墜落したらニューヨーク・マンハッタンは大惨事です。と、その時、サレンバーガー機長の眼下にハドソン川が目に見えます。機長はここに着水することを決意するのです。進入角度を少しでも間違えれば機体は真っ二つです。必死に機体をコントロールした機長はハドソン川に無事着水させることに成功し、乗客・乗員 155 人は全員救助されます。時間にしてわずか 208 秒。この出来事は後に「ハドソン川の奇跡」と呼ばれ、世界から賞賛されました。

若い頃は空軍に所属して厳しい訓練を受け、多くのフライトを経験し、非常事態の心理学も学んでいたサレンバーガー機長は、あるジャーナリストに事故後このようにコメントをしました。「多くの意味で、私の人生はあの瞬間に対処するための準備だったように思います…」と。

私はこのコメントを聞いた時、昔、聞いた「天の封書」という話を思い出しました。人は生まれ出る時に、天から一通の封書を授かるそうです。その封書の中には、「自分の人生で果たすべき大きな使命」が書かれているのです。しかし、封書ですので、若い時には中身が全くわからないのです。「私の人生における大きな使命は〇〇だ」と言える高校生はまずいないでしょう。しかし、大人になると、その封書が開かれる時がやって来るといいます。つまり、人生において自分が何を為すべきか、自分の大きな使命や役割を自覚できる時が来るといことです。ただ、悩ましいのは、「その時」がいつ来るかがわからないのです。就職して 10 年経った時かもしれない。もしかしたら、年をとって退職前なのかもしれない。「その時」がいつかはわからないのですが、いつ来ても力を出し切れるように、常日頃から不断の努力をしておかないといけません。サレンバーガー機長にとっての天の封書が開かれた瞬間は、まさにあの日の 208 秒だったのかもしれない。

高校に入学して君たちは 3 年が経とうとしています。君たちはこれまでに「何故、こんなにきつい勉強をしないといけないのか」と思ったことはないでしょうか。「こんなに苦しい受験勉強を何故しないといけないのか」。「ああ、何もかも放り投げて楽になりたい」と思う夜が何度もあったと思います。

しかし、君たちもまた天の封書を抱きながら生きています。君たちにも、いつか「その時」が訪れるはずで、天の封書が開かれる瞬間が…。つまり、君たちがやってきた高校時代の勉強、これから始まる大学時代の学問が、世のため、人のために役立つ時が…。「自分はこの時のために今まで努力してきたのか!」と強く実感できる日がいつかはやってきます。でも、今、自分の弱さに負け、意気消沈し、地道な努力や精進を怠っている人には、その日はいつまで経ってもやって来ない。いざその時が来たとしても、力が蓄えられていないので、十分に力を発揮できません。そして天の封書の中身に気づけないまま終わってしまいます。それは、スポーツでいうと日々のトレーニングをさぼり、大事な試合の時に体が動かず、チームのために自分の役割が満足に果たせないのに似ています。

受験勉強もいよいよ大詰めです。今が君たちにとって一番苦しい時だと思います。逃げたい時だと思います。しかし、今、君たちが続けている努力が、いつの日か人のために生きる時が、そして多くの人を救う時がやって来ます。だから今は自分の弱さに負けず、最後まであきらめずに、勇往邁進、前へ、前へ、突き進んでください。やがて訪れるその時のために…。

やり切った先には大きな感動が。 気張れ、57 期生!

